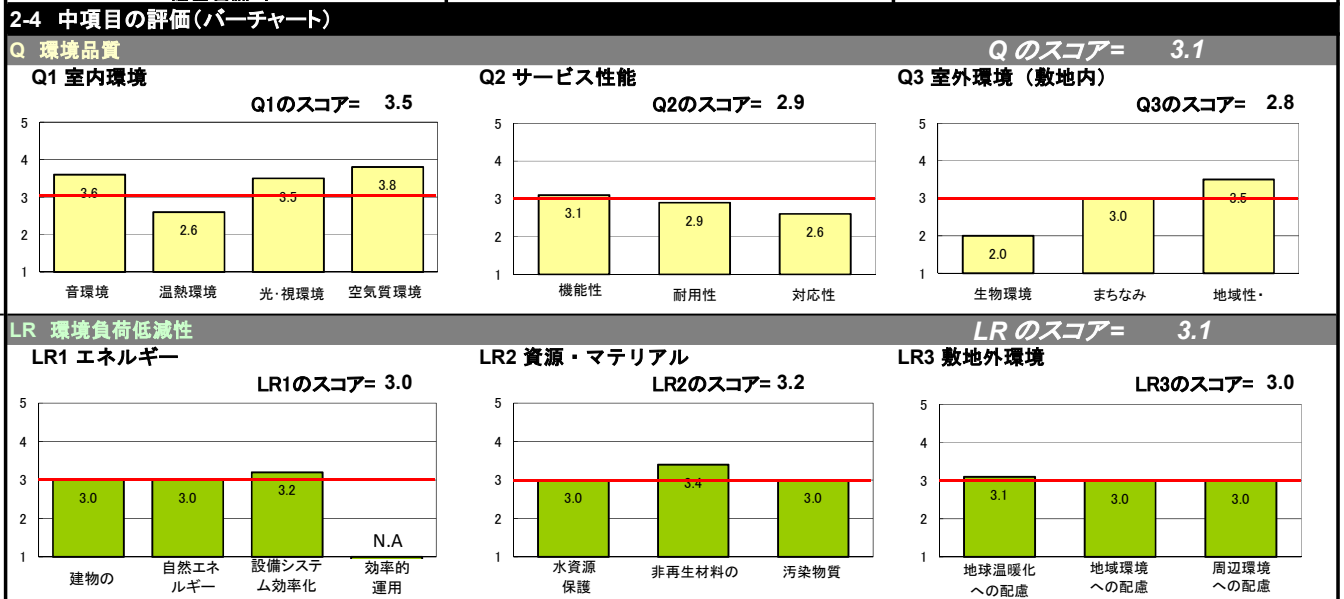
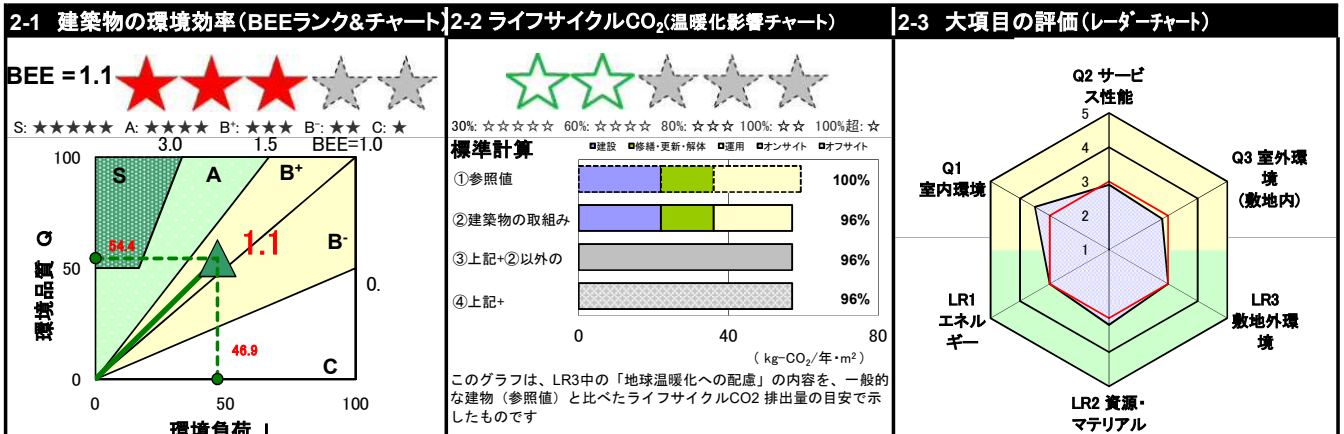


## 川崎市建築物環境配慮制度受付番号 14086

建築物名称	(仮称)武蔵小杉マンション新築工事
建築主	株式会社シノケンハーモニー 代表取締役社長 三浦 義明
建築物の所在地	川崎市中原区中丸子字塚田246-1他
設計者氏名、建築士事務所名	岩井 浩昭 株式会社小川建設 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	5,393.05m <sup>2</sup>
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上6階
工事完了予定年月	平成28年6月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観		14086
建物名称	(仮称)武蔵小杉マンション新築工事	階数	地上 6F	
建設地	川崎市中原区中丸子字塚田246-1 他	構造	RC造	
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	186 人	
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2016年6月 予定	評価の実施日	2015年2月26日	
敷地面積	1,939 m <sup>2</sup>	作成者	今西良一	
建築面積	1,036 m <sup>2</sup>	確認日	2015年3月3日	
延床面積	5,393 m <sup>2</sup>	確認者	(株)小川建設一級建築士事務所	



CASBEE-川崎2011 (v.1.2)

(仮称)武蔵小杉マンション新築工事

14086

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>2.9</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針の基準に適合、建物緑化指数:10%以上 確保 建物高さ、壁面位置等がまちなみに調和。植栽による良好な景観 日陰の形成:30%以上、緑被率等:30%以上 確保	2.4/4.3	2.8
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標:0.3以上、屋根面対策面積率:20%以上 確保	0.5/0.8	3.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>3.1</b>
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.3 外皮性能	省エネ基準:等級3 カーテン+庇でグレアを制御	2.3/3.2	3.6
3 3.1 3.1.3 屋光利用設備 3.2 3.2.2 屋光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針の基準に適合、建物緑化指数:10%以上 確保 日陰の形成:30%以上、緑被率等:30%以上 確保	1.2/2.3	2.7
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	省エネ基準 等級3	3.1/5.0	3.1
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		3.0/4.6	3.3
2 非再生性資源の使用量削減			
3 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標:0.3以上、屋根面対策面積率:20%以上 確保	0.5/0.8	3.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>3.0</b>
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	主要設備機器の更新必要間隔:10年	0.3/0.5	2.7
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	躯体と仕上げ材が容易に分別可能、再利用可能な部材の採用	2.6/3.9	3.3
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	駐車・駐輪スペースの確保	0.3/0.4	3.3
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>2.9</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針の基準に適合、建物緑化指数:10%以上 確保 日陰の形成:30%以上、緑被率等:30%以上 確保	1.2/2.3	2.7
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	省エネ基準 等級3	3.1/5.0	3.1
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標:0.3以上、屋根面対策面積率:20%以上 確保	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.0**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	日本住宅性能表示基準3-1劣化対策等級:1	0.1/0.1	3.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の再利用		0.8/1.4	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	省エネ基準 等級3	3.1/5.0	3.1
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

CASBEF-川崎2011年版						欄に数値またはコメントを記入				14086
スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	G	W	R	H	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
						評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										3.1
Q1 室内環境							0.40			3.5
1 音環境										3.6
1.1 騒音										
1 室内騒音レベル										3.0
2 設備騒音対策										3.0
1.2 遮音										4.2
1 開口部遮音性能					サッシュの遮音性能:T-2					5.0
2 界壁遮音性能										3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					置き床工法:Lr-40					5.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					置き床工法:Lr-50					4.0
1.3 吸音										
2 温熱環境										2.6
2.1 室温制御										3.0
1 室温										3.0
2 負荷変動・追従制御性										
3 外皮性能				W						3.0
4 ゾーン別制御性										
5 温度・湿度制御										
6 個別制御										
7 時間外空調に対する配慮										
8 監視システム										
2.2 湿度制御					除湿装置(エアコン)+熱橋部分の結露対策					4.0
2.3 空調方式										1.0
3 光・視環境						3.0	1.00			3.7
3.1 屋光利用										3.4
1 屋光率					(住)屋光率:2.0%以上					5.0
2 方位別開口										1.0
3 屋光利用設備				W						3.0
3.2 グレア対策										4.0
1 照明器具のグレア										
2 屋光制御				W	カーテン+庇によりグレアを制御					4.0
3 映り込み対策										
3.3 照度						3.0	1.00			
3.4 照明制御										
4 空気質環境										3.8
4.1 発生源対策										4.0
1 化学汚染物質					ほぼ全面的にF☆☆☆☆採用					4.0
2 アスベスト対策										
3 ダニ・カビ等										
4 レジオネラ対策										
4.2 換気										3.6
1 換気量										3.0
2 自然換気性能					自然換気有効開口面積が居室床面積の1/6以上					5.0
3 取り入れ外気への配慮										3.0
4 給気計画										
4.3 運用管理										
1 CO <sub>2</sub> の監視										
2 喫煙の制御										

Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.9
<b>1 機能性</b>				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.2</b>	1.00	<b>3.1</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>				-	-	<b>4.0</b>	0.60	
1	広さ・収納性							
2	高度情報通信設備対応			各住戸に100Mbitクラスのプロードバンドが利用可能な環境が整備されている。		<b>4.0</b>	1.00	
3	バリアフリー計画							
<b>1.2 心理性・快適性</b>				-	-	<b>2.0</b>	0.40	
1	広さ感・景観					<b>3.0</b>	0.50	
2	リフレッシュスペース							
3	内装計画					<b>1.0</b>	0.50	
<b>1.3 維持管理</b>				<b>3.0</b>	1.00			
1	維持管理に配慮した設計			<b>3.0</b>	0.50			
2	維持管理用機能の確保			<b>3.0</b>	0.50			
3	衛生管理業務							
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>2.9</b>	0.31			<b>2.9</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>				<b>3.0</b>	0.48			
1	耐震性			<b>3.0</b>	0.80			
2	免震・制振性能			<b>3.0</b>	0.20			
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>				<b>2.7</b>	0.33			
1	躯体材料の耐用年数			<b>3.0</b>	0.23			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔			<b>2.0</b>	0.23			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			<b>2.0</b>	0.09			
4	空調換気ダクトの更新必要間隔			<b>3.0</b>	0.08			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔			<b>5.0</b>	0.15			
6	主要設備機器の更新必要間隔			<b>2.0</b>	0.23			
<b>2.4 信頼性</b>				<b>3.4</b>	0.19			
1	空調・換気設備			<b>3.0</b>	0.20			
2	給排水・衛生設備			<b>4.0</b>	0.20			
3	電気設備			<b>3.0</b>	0.20			
4	機械・配管支持方法			<b>3.0</b>	0.20			
5	通信・情報設備			<b>4.0</b>	0.20			
<b>3 対応性・更新性</b>				<b>3.0</b>	0.29	<b>2.6</b>	1.00	<b>2.6</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>						<b>2.2</b>	0.50	
1	階高のゆとり					<b>3.0</b>	0.60	
2	空間の形状・自由さ					<b>1.0</b>	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>						<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>				<b>3.0</b>	1.00			
1	空調配管の更新性			<b>3.0</b>	0.17			
2	給排水管の更新性			<b>3.0</b>	0.17			
3	電気配線の更新性			<b>3.0</b>	0.11			
4	通信配線の更新性			<b>3.0</b>	0.11			
5	設備機器の更新性			<b>3.0</b>	0.22			
6	バックアップスペース			<b>3.0</b>	0.22			
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>				<b>2.0</b>	0.30			<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>				<b>3.0</b>	0.40			<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				<b>3.5</b>	0.30			<b>3.5</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>				<b>3.0</b>	0.50			
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>				<b>4.0</b>	0.50			
				水平投影面積率:30%以上、緑被率、水被率、中・高木の水平投影面積率:30%以上				

LR 建築物の環境負荷低減性									3.1
<b>LR1 エネルギー</b>									3.0
<b>1 建築物の熱負荷抑制</b>				W					3.0
<b>2 自然エネルギー利用</b>									3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				W					3.0
2.2 自然エネルギーの変換利用				W					3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>				W					3.2
集合住宅以外の評価 (ERRIによる評価)									3.0
集合住宅の評価									3.2
<b>4 効率的運用</b>									
4.1 モニタリング				W					
4.2 運用管理体制				W					
<b>LR2 資源・マテリアル</b>									3.2
<b>1 水資源保護</b>				W	R				3.0
1.1 節水									3.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用									3.0
1 雨水利用システム導入の有無									3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無									
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>									3.4
2.1 材料使用量の削減				W	R				3.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用				W	R				3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W	R				3.0
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用				W	R				3.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材				W	R				2.0
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W	R				5.0
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>									3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用									3.0
3.2 フロン・ハロンの回避									3.0
1 消火剤				W					-
2 発泡剤(断熱材等)				W					3.0
3 冷媒				W					3.0
<b>LR3 敷地外環境</b>									3.0
<b>1 地球温暖化への配慮</b>				W					3.1
									ライフサイクルCO2排出率90%以上
<b>2 地域環境への配慮</b>									3.0
2.1 大気汚染防止									3.0
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W				3.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制									3.0
1 雨水排水負荷低減						R			3.0
2 汚水処理負荷抑制						R			3.0
3 交通負荷抑制						R			3.0
4 廃棄物処理負荷抑制						R			3.0
<b>3 周辺環境への配慮</b>									3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止									3.0
1 騒音									3.0
2 振動									-
3 悪臭									-
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制									3.0
1 風害の抑制									3.0
2 砂塵の抑制									-
3 日照障害の抑制									3.0
3.3 光害の抑制									3.0
1 昼間照明及び屋内照明のつらみに漏れる光への対策									3.0
2 昼間の建物外壁による反射光(グレア)への対策									3.0